JAPAN FOUNDATION FOR UNITED NATIONS UNIVERSITY

jfUNU Newsletter

公益財団法人 国連大学協力会
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70
TEL 03-5467-1368　FAX 03-5467-1349
URL http://www.jfunu.jp/ E-mail jf@unu.edu

CONTENT NO.28 2017年3月

●国連大学サステイナビリティ高等研究所
大学院修了式
●株式会社島津製作所訪問・京都見学
●jfScholarship奨学生
住友化学株式会社　表敬訪問

国連大学サステイナビリティ高等研究所大学院 修了式

2016年7月7日、七夕のこの日、国連大学サステイナビリティ高等研究所大学院から新しい博士が2名、修士が7名誕生しました。アカデミックドレスに身を包んだ学生は、皆誇らしげでした。
国連大学協力会がjfScholarship奨学金で応援してきたコモラフェさん（ナイジェリア）、ソリアーノさん（フィリピン）、マンスールさん（スリランカ）もこの日国連大学を巣立っていきました。修了式の後、jfScholarshipの協力会員として学生の日本での生活を支援してきた日本電子株式会社の取締役兼専務執行役員福山幸一氏へjfScholarship奨学生それぞれから感謝状が手渡されました。(4面)

大学院生を応援しよう！ jfScholarship協力会員

国連大学大学院で学ぶ外国人学生への奨学金として、彼らの日本での生活を支援する寄付制度。個人でも団体でも会員になれます。
本法人への寄付には公益財団法人としての税制上の優遇措置が適用され、寄付者は所得税・法人税の控除が受けられます。
個人の寄付については内閣府より税額控除制度の適用も認められております。詳しくは事務局までお尋ねください。

Find us on

Facebookをはじめました！
国連大学や国連大学協力会の活動を紹介していきます。
是非イイね！をお願いします。

～QR コード～

科学技術の発展で環境にやさしい社会をめざす
～株式会社島津製作所見学～

まるで水の上を走っているみたい！
快適な新幹線の旅を満喫。

国連大学協力会では、国連大学サステイナビリティ高等研究所で学ぶ学生のために、協力会員としてご支援いただいている企業への見学会を毎年2回実施しています。今回は世界最先端の分析機器で水質汚染や気候変動などの環境問題へ挑む京都の老舗、株式会社島津製作所を訪れました。

快適なSHINKANSEN！

朝7時20分。「昨晩は興奮して寝られなかった」と寝ぼけ眼をこすりながら、品川から新幹線に乗りこみ京都へ向かいました。あいにくの曇天で富士山こそ拝めなかったものの、都会から住宅地、田園風景から山の中へと次々に変わる風景を車窓から満喫。水の上を滑るかのような静かで快適な乗り心地に、ついうたた寝をしたり、車内販売でお弁当やコーヒーを買ってみたりと、学生たちは各々思い思いに新幹線の旅を堪能したようです。

ようこそ島津製作所三条工場へ

いよいよ京都駅に到着。島津製作所の山田瑞枝氏がバスでお迎えに来てくださり、早速三条工場へ向かいました。アジア、南米、アフリカと世界各地からきた学生にとって、京都の街は特にエキゾチックに映ったようで、バスの窓越しに見えた東寺や如意ヶ嶽の大文字、二条城など京都の観光名所を通り過ぎては歓声をあげていました。今回は残念ながら観光をする時間はなかったのですが、学生は皆、いつか将来日本に戻ってきてゆっくりと京都を観光すると、心に決めたようです。

展示場　Science Plazaにて、日常生活の様々な場面に使われている機材を見学。未来のガン治療法など最先端の技術に目を輝かせる学生たち。

街並みを堪能しているうちに、島津製作所三条工場に到着しました。およそ工場の印象とは程遠い白を基調とした和風モダンな建物で、外気を取り込み空調負担を軽減することのできる自然換気システムや、自然採光を取り入れた構造を採用しているなど環境に配慮した様々な工夫がされているそうです。サステイナビリティ学を学ぶ学生は興味深々のようでした。

島津製作所ではまずはじめに、海外事業開発部企画管理課グループ長の西田悟氏による会社の概要説明と、分析計測事業部グローバルマーケティング部長の上柳敦郎氏から歓迎の挨拶があり、その後地球環境管理室主任の岡野雅通氏より島津製作所が取り組む地球環境にやさしい技術や取組などについて説明を受けました。島津製作所は、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の最優先課題の一つと位置づけており、さまざまな取り組みを行っていることが紹介され、学生たちは身を乗り出して聞き入っていました。

これが日本の生活の質を支えている技術なのか！

続いて、質量分析装置やイメージング装置などの島津製作所の最先端分析機器が数多く展示されるScience Plazaを見学しました。わずか0.1mmという小さな段階でがんを早期に発見する検査機器などの最先端の医療技術や、食品の硬さを測定し「サクサク」「カリカリ」など新たな食感を追求するためなどに使われるという測定機器など、ユニークな機器が多く展示されていました。学生たちは「日本の生活の質の高さの秘密はここにあり。」と感心しきった様子でした。

島津製作所創業記念館にて。ステンドグラスを見上げる。
当時の趣が感じられる。

島津製作所の原点にかえる

続いて訪問した創業記念館ではガイドさんが島津製作所の原点となる初代・二代目島津源蔵の足跡と社の歴史を案内してくれました。1階は鴨川と桜をモチーフにした日本初のステンドグラスで彩られた洋風の建築である一方、2階は和風の建築様式とユニークな造りになっていました。記念館では当時使われていた書斎や開発したレントゲンなど多くの展示があり、より豊かな社会を夢見て研究に没頭した初代と二代目の熱意と情熱を、時間を超えて感じ取ることができました。

突撃！島津の社食

「たかが社食・・・」と侮ってはいけない。島津製作所の社食は、京都らしい薄味の味付けで、非常に栄養バランスがとれており、びっくりするほど美味しいのだ。学生たちも「あまりにもおいしくて、食べ過ぎてしまった」「ベジタリアンなので外食する時は食べられるものを見つけるのに苦労しているが、完食したのは初めて」と大絶賛。トマトサラダシーザー風、レアチーズケーキ、焼き豚と卵の混ぜご飯とお豆腐を頂いたのだが、このレアチーズケーキは特に絶品だった。
どうやら、ちゃっかり「お代わり」を頂いた学生もいた模様。ご馳走さまでした！

古都京都で和を満喫

風光明媚な嵐山で、和を満喫

沢山の方に見送られながら島津製作所を後にし、一行は京都は嵐山へ向かいました。

まず、大本山天龍寺塔頭大亀山宝厳院を訪問。新緑が清々しい初夏の宝厳院はどこを切り取っても絵になるようなところでした。美しい日本庭園に、学生たちは暫し都会の喧騒から離れ、苔海と樹木が織りなす嵐山の景観と美をゆったりと堪能していました。短歌や和歌が書かれた石碑や無数に並ぶ石像、枯山水なども学生の目を引いたようです。

また、日本文化体験として、お抹茶を頂きました。学生たちは緋毛氈や野点傘の下に座ると、大事そうに両手でお抹茶をうけとり一口。茶道のお作法にも挑戦しながら、お抹茶をたしなんでいました。

新緑が美しい宝厳院。

天井の龍はホンモノ！？世界遺産天龍寺にて平和に想いをはせる

続いて世界遺産天龍寺を訪問。和尚さんから特別に国宝雲龍図についてご案内をうけました。

天龍寺の雲竜図がある法堂は釈迦三尊像の教えを実践する場として最も神聖な場所。その神聖な場所を火災から守っているのが天井に描かれた雲龍だそうです。この龍は「八方にらみ」として描かれており、どこから見ても自分が睨まれているように見える不思議な絵。釈迦の教えを守り私たちがきちんと善い行いをしているか天の上から見守っているような、荘厳な雰囲気がそこにはありました。一行は天井の龍が動く様子を体験し、まるで生きているかのごとく動く龍に感動しきりでした。

最後に和尚さんから「是非日本で感じた平和の尊さを母国に伝え、実現してほしい。」とメッセージを受けました。その後本堂を見学したり、嵐山、小倉山、亀山を借景として作られた曹源池庭園（そうげんちていえん）を歩いてまわりました。

帰り際、一行は一度はバスに乗るも、「もう少し見ていきたい」と再度下車。抹茶ソフトを堪能したり、竹林の道を歩いたり、夕焼けのなか渡月橋を渡ったりと各々嵐山を満喫したようです。

「２回まわしてから・・・と」

一五爪の龍一

龍には格があり、爪の数でその強さが異なるという。中国における龍は5本の爪を持ち、周辺国である台湾や韓国では4本爪の龍が描かれていることが多いそうだ。日本でみられる龍は3本爪がほとんどであるが、天龍寺の雲龍図の龍の爪は5本であることから、非常に貴重な文化財とのこと。

お抹茶のお味は？

天龍寺の和尚、小川さんと。

天龍寺にて。

「jfScholarshipをどうもありがとう」
博士課程学生、住友化学株式会社を表敬訪問

2016年5月某日。Sumitomo Chemical Scholarship for UNU奨学生である博士3年のアキノラ・コモラフェさん（ナイジェリア）は、3年間の日本での学生生活を支えてくれた感謝の意を伝えるため奨学金のスポンサーである住友化学株式会社を訪問しました。

「わー。大きいビルだなあ。」八丁堀にある住友化学株式会社東京本社ビルを見上げ、歎息を漏らすコモラフェさん。身長180cmを優に超えるコモラフェさんですが、そのビルの大きさに少々圧倒されたのか、この日は少し緊張した様子。しかし、広岡敦子執行役員をはじめ、住友化学株式会社の皆様の温かい歓迎をうけると破顔一笑、嬉しそうに握手を交わしていました。

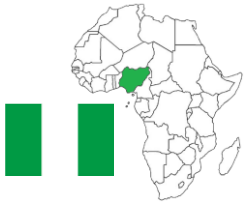
国連大学で博士課程を修めるにあたりjfScholarship奨学金で生活面での経済支援をしてくれた住友化学株式会社へ謝意を述べ、礼状を手渡しました。
コモラフェさんは3年間の学生生活を振り返り、「奨学金のお蔭で勉学と研究に集中して取り組め、そして将来につながる業績を残すことができました。住友化学株式会社からお学金は、人生に大きな影響を与えたといっても過言ではありません。国連大学での研究活動やトレーニングで身に着けたことを母国ナイジェリアに帰って応用発展させていきたいです。」と目を輝かせていました。広岡敦子執行役員からは、住友化学株式会社が近年アフリカへ事業の展開をしており、また保健分野をはじめとするSDGsのあらゆる分野への貢献を目指していることが紹介され、「ナイジェリアへ帰っても、このご縁はずっと大切にしていきましょう」とお互い固く握手を交わしました。

Akinola Adesuji Komolafe (Nigeria)

博士論文
"Unified loss functions for pre-flood disaster damage modelling"
日本、タイ、スリランカのケーススタディから考察した、事前洪水被害予測の損失モデルの発展。洪水被害の予測に大きく貢献し、政策決定や洪水対策へ大きく役立てたい。

今後は？
ナイジェリアへ戻り研究を続ける。環境リスクやサステイナビリティなど関連分野の研究に打ち込み、母国の環境政策決定への貢献したい。

ナイジェリアってどんな国？
西アフリカに位置する連邦制共和国.
ナイジェリアは人口と経済規模から「アフリカの巨人」とも称される。



2016年度修士課程修了　jfScholarship奨学生

Mario Jr.Alipio Soriano（Philippines）

UNU-IASにおける2年間の学修を支えてくださったJFUNUと奨学金スポンサーの皆様に感謝申し上げます。奨学金を得てこの特色ある最先端の教育機関で大学院修士課程を修める機会を頂いたことに心から感謝申し上げます。私はフィリピンの小さな漁村の出身です。慎ましやかな生活のなかでも、母はいつも学問の追求を応援してくれていました。フィリピン大学ディリマン校で土木工学の学士を修め、この度はUNU-IASでサステイナビリティ学の修士を修めることができました。いつか将来、母国と国際社会に貢献することを夢見て、この素晴らしい環境で最高の結果を出すべく、勉学と研究に全力を尽くしました。この成果は、JFUNUの寛大な支援なくしてはあり得なかったとおもいます。改めて、JFUNUとスポンサーの皆様にお礼申し上げます。高等教育をうけることを応援してくれた、みなさまの情熱と優しさをずっと忘れません。（抄訳）

Abee Mansoor（Sri Lanka）

UNU-IASにおける2年間の学修を支えてくださったJFUNUと奨学金スポンサーの皆様に感謝申し上げます。UNU-IASの修士課程では、持続可能な社会における課題を紐解くためのスキルと知識を得ることができました。学問分野を超えた革新的なアプローチによる、自然科学と社会科学を融合させた素晴らしいプログラムでした。修士課程を終えた今、世界が抱える課題に持続可能なソリューションを提示するためのより豊かな見識をもつことができたと感じています。国連大学のような一流の大学でサステイナビリティ学の修士課程に入ることができたのは、JFUNUとUNU-IASの提携のお蔭です。経済的支援のほかにも、日本の文化を理解するための様々なセミナーや研修を企画してくれました。UNU-IASで修士課程を修めるための経済的な支援及び様々なサポートに感謝します。また、今後も発展途上国の学生の支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。（抄訳）